

令和7年度第1回奈良県文化創造ギャザリング議事概要

<昨年度のこども・若者からの意見を受けての取組にかかること>

■コレクション展「わたしたちのびじゅつかん ～きて・みて・はなして→たいけんする美術展～」 (2025年7月19日～8月24日)

- ・ワークシートを用いた対話型鑑賞による企画展を開催し、約5,300人（内子ども約1,700人）が来館。
- ・関連展示として、大阪芸術大学によるメディアアートの体験型作品の展示や岡山大学によるAIとの対話型鑑賞の実験など、実験的な取り組みを交えながら、五感を使って鑑賞する展示を行った。また、奈良市中学校美術部の作品展やアート夏祭りのイベントを地域の学校やNPOの団体や個人などと一緒に作り上げた。
- ・創作活動として、水墨画のワークショップとブロック遊びのワークショップを開催。
- ・アウトリーチ活動として、奈良教育大学と連携し、中学校や小学校での出前授業、学校へアーティストを派遣しアーティストのアイデアを体験するワークショップを開催。
- ・こうした取り組みを進め、誰でも美術館を訪れ、美術を楽しむことができる環境を目指していきたい。

<奈良県立美術館整備基本構想の策定にかかること>

■美術館の方向性

- ・学習支援やインクルーシブ・プロジェクトはこれからの美術館にとって重要な視点であり、世界にない奈良県ならではの取り組みが必要。
- ・対話型鑑賞については、教育大学などとの連携により、専門人材を育成していくとよいのではないかな。
- ・県内の他の文化施設と上手く連携することで、多様な機能を展開できる。美術館から博物館や図書館へと誘導するなど、相互関係を充実させる。

■美術館の展示の考え方

- ・日本では、「鑑賞」が重視されるが、作品が作られた背景も重要。どのような場所、どのような背景で制作された作品であるかを積極的に取り上げることが必要。
- ・奈良公園という場所性を活かし、観光客が気軽に訪れるようにするためには、常設展示を奈良ならではのコレクション展示とすべき。

■美術館の機能

- ・県民ギャラリーは、本来であれば基礎自治体の役割。
- ・美術館はゆっくりと過ごせる場、マーケティングで言う「深い消化」のできる場なので、カフェの併設が必要。
- ・飲みながら本物のアートに触れられるナイトミュージアムなど、夜間も楽しめる仕掛けが必要。

■美術館の立地（現地建替と移転の両面から幅広く議論）

- ・国立博物館等がある奈良公園内にあることが重要。
- ・奈良公園内の社寺と連携することで注目を集めることができる。
- ・仮に移転する場合の候補地を3つ示しているが、奈良春日野国際フォーラムは景色も良いので、この場所が最有力ではないかな。
- ・改修か建て替えか、建て替えるのであれば現在地での建て替えか現在地以外へ移転するのか、移転するのであればどこが適しているのか、段階的に検証するべき。
- ・奈良県外国人観光客交流館（奈良県猿沢イン）は、その存廃や民間活力の導入を含めた今後のあり方について奈良県が調査をしているようであるが、これを美術館に転用してはどうか。その場合、交流館だけでは規模がやや小さいので、周辺の奈良町の空き家等を活用しエリア全体でミュージアムを形成するという考え方もあるのではないかな。
- ・文化財包蔵地であり新たに開発するにはハードルが高いので、仮に移転とするのであれば近隣の社寺や文化施設と連携しやすい奈良春日野国際フォーラムの場所が最適。現地建替との比較をした上で、諸条件を事務局で整理し、11月に開催予定の第2回ギャザリングで報告してほしい。